

## [COMMUNION]

WEB:http://www.nskk.org/

tokyo/index.html

E-mail:comm.tko@nskkn.org

PHONE:03-3433-0987

FAX:03-3433-8678

Diocese Office



《イースターメッセージ》

## 日々新たな勇氣を

司祭 テモテ 河野 裕道

キリスト教は、イエス・キリストの復活から始まりました。4つの福音書でも使徒言行録やパウロの手紙でも、この復活の事実を中心のかつ重要な出来事として取り上げています。しかし、「復活」というのは、聞けばすぐに解るといふことではありません。あの弟子たちでさえもが疑い迷ったのでした。

キリストが復活されたことを最初に知ったのは、女性たちでした。しかし、4つの福音書それぞれが、その人数も名前も異なっています。また、天使についても地震、墓の入り口にあった大きな石のことも同じではありません。だから、人びとはキリストの復活は、「でっち上げ」また錯覚だと言います。復活に関する限り、世間の人びとが信じないからと言って、憤慨することはありません。教会の中にも、信じていないのではな

いかと思われる人がおられるようです。しかし、デマや錯覚のために殉教したり、地の果てにまで困難を超えて、復活の力と喜びを伝える力と勇氣が出てくるとは思えません。その力によって、教会という群が誕生し、今日まで続いている生きた姿の中に、その証があると言わなければなりません。主の復活の記録が、不統一でバラバラなのは、逆に復活の証を暗示するものと言えるでしょう。復活が、後の教会の作り上げたものならば、辻褄の合う見事なつくり話を作ったことでしょう。聖書の多様な記録は、それだけ弟子たちの受けた印象が強烈で記憶を混乱させてしまう程に生きる根源的な力を揺さぶる体験だったと言わなければなりません。

聖書の記録の比較検討や弟



子たちの心理を推し量って、復活の事実を確かめようとしても、それは空虚な墓の中に主イエスの屍を探すことにならなうでしょう。天使は女性たちと私たちに向かって、「なぜ、生きておられる方を死者の中に捜すのか。あの方は、ここにはおられない。復活なさったのだ」と。(ルカ24:5-6)

復活の主を最初に見つけたマダラのマリアに目を向けてみましょう。12人の弟子の誰よりも先に、一人の女性がキリストと出会ったのです。彼女は、

7つの悪霊に取り憑かれていたということ。種々の問題を抱え、打ちひしがれ、絶望的な人生を過ごしていた時に、キリストと出会って、その生涯は一変したのです。そのキリストが、十字架につけられ、死刑に処せられるのです。今度こそ彼女は、生きる力を失い、完全に打ちのめされてしまうのです。なおも、諦めきれずに墓にやって来ると、そこには死体もない。彼

女は墓を見つめ途方に暮れるのです。そこには、過去の回想、懐かしい栄光を追憶することはあっても、生きる力も希望も湧いてきません。このような生き方は、キリストの声を聞いても、それを墓の番人と見えてしまうような、意味も目標もない空虚なものです。しかし、この場にはマダラのマリアの後ろにキリストが立ち、彼女を見守りながら、キリストの方から声をかけてくるのです。

私たちも怠惰や失敗、勇氣がなく、無責任になることがありますが、希望が見えないこともあります。あの出来事を悔やみ嘆く生き方ではなく、空虚な墓から、私たちの背後に立つておられるキリストに、視点をつかりと向けたいものです。

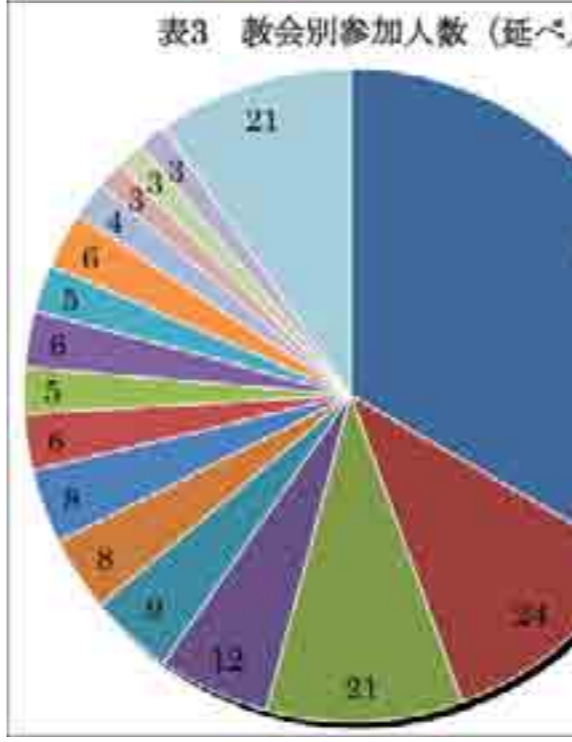
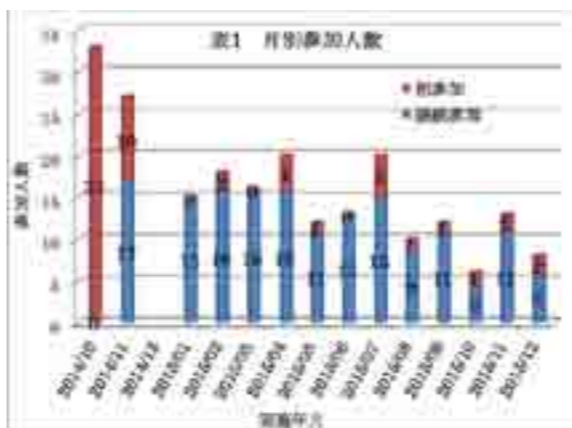
復活のキリストは、危機に直面する代々の教会に過去の失敗を救し、新たに困難に立ち向かう勇氣と力を与え続けておられるからです。

特集 東京教区青年会とは

東京教区の活動の一環として、青年世代同士の横の繋がりを活性化するために、18歳（高校卒業年次）～35歳の青年が定期的に集まり活動しています。東京教区青年会（以下、教区青年会）は、様々な状況にある青年たちの受け皿となり、青年自身が積極的に繋がる活動を通して、日常生活の精神的・信仰的な糧となっていくことを目指しています。

発足の経緯

日曜学校から中高生世代の活動を終えた後、青年世代にフォーカスした活動・組織は、教区内には乏しく（見えづらい）、日曜学校世代・中高生世代・壮年世代との間で、青年世代はぽっかりと宙に浮いた状態でした。また東京は、就職や進学で青年世代も含め多くの人が各地から出てくる土地です。それにも関わらず先



れも多く、都内で生まれ育った青年たちが教会を訪ねても同世代と出会う可能性も限られていました。このような状況から複数の青年たちから教区の組織として青年会を求める声が上ががり、長い準備期間を経て、信仰と生活委員会及び主教座聖堂活動委員会のもと、教区青年会が発足しました。

3つの活動軸

教区青年会の働きの軸は、「学び」「奉仕」「交流」です。これら3つの働きの軸をもとに、「人」が集い、礼拝する「場」となり、教区青年会が青年たちの「居場所」となっていくことを目指しています。毎月の活

動（定例会）の詳細は次の通りです。  
活動詳細  
・日時：毎月第4土曜日 14時～17時（変更の可能性あり）  
・場所：東京諸聖徒教会・対象年齢：18歳（高校卒業年次）～35歳  
・参加方法：事前申し込み不要  
・参加費：5百円程度  
2016年4月からは東京諸聖徒教会を新たな活動の足場とし、毎

月の定例会を行います。定例会では青年たちで考えたプログラムと夕の礼拝を行います。  
教区青年会の1年間のあゆみ  
2014年10月に第1回定例会を

聖アンデレ主教座聖堂で行い、本日まで毎月の定例会を守ってきました。2015年12月までの定例会にて、計62名の青年と出会うことができました（表1の初参加人数合計 ※2014年12月はデータなし）。また各世代（10～30代）の青年が参加し（表2）、教会別にも様々な教会の青年と出会うことができました（表3）。なお教会別のグラフにて「その他」の人数は、2014年10月～2015年12月の延べ人数で2名以下及び教会名未記載の参加者の数をまとめております。

各月、下記表のような礼拝及びプログラムを行ってきました。下記の定例会プログラム以外にも「教区会（11月）での豚汁作り」や「災害対応チームとのチャリティ・デイボランティア活動」と、教区内外と繋がる様々な活動を行ってきました。

東京教区青少年センター（仮）の夢

2016年4月から教区青年会の活動拠点を、聖アンデレ主教座聖堂から東京諸聖徒教会へ移すことが決まりました。聖アンデレ主教座聖堂は、教区青年会以外にも多くのプログラムで使用されており、教区青年

実施月	内容
10月(2014)	礼拝+キックオフパーペキュー
11月	礼拝+自分探しワーク
12月	礼拝+忘年会
1月(2015)	礼拝+青年が教会を考える
2月	礼拝+自分探しワーク
3月	礼拝+卒青年会式
4月	礼拝+聖書を読む会
5-6月	礼拝+なぜ聖公会が「社会問題」に取り組むか Part1,2
7月	礼拝+大企画会議
8月	礼拝+聖書を読む会
9月	礼拝+映画鑑賞会
10月	礼拝+青年会振り返り会
11月	礼拝+教区会準備
12月	礼拝+忘年会

（仮）を将来的には実現していきたいと考えております。このセンター内で行われる活動・教育を通して語られる神の言葉が、関わるすべての人に聴かれ、東京教区全体の福音理解や宣教活動に、新たな神の息吹を吹き込むことを信じています。

会の定例会や会議もその合間をぬって、場所の予約等を要しつつ実施してきました。聖アンデレ主教座聖堂は、毎回場所をお借りするという点で、活動の「場」としての限界がありました。しかしこの度、東京諸聖徒教会へ活動拠点を移すことにより、教区青年会が「場」を持つという点で新たな一歩を踏み出しました。東京諸聖徒教会の一部を使用したいという教区青年会のビジョンに耳を傾けて頂き、またこの願いを受け入れて頂いた東京諸聖徒教会の方々に本当に感謝いたします。

また教区青年会は中高生キャンプ準備会や日曜学校ネットワークと連携し、子供から青年まで一貫した教育プログラムを担う場・機能として「東京教区青少年センター

中高生キャンプ準備会のスタッフからは、東京教区青少年センター（仮）にてどのようなことが出来るか、各々次のような夢（妄想）が語られました。「夏の中高生キャンプだけではなく、ワンデイキャンプをしたい」「小中高生のための学童クラブはどうか」「子ども食堂なんて難しいのかな」「青少年センター主催のバザーをしたい」「活動の一環としての収益事業を」「オピニオンリーダーとしての信仰的精神的挑戦を、教会内外に発信して行けたら」・・・

これら夢を少しずつ実現していく中で、教区内で子供から青年までの受け皿となる実質的な活動の場・機能を目指して、一歩ずつ進んで行きたいと思っております。

東京教区青年会 世話人会

司祭と語ろう(その17) 前編

司祭 宮崎 光

今回は、立教学院チャペルの宮崎光司祭に、広報委員がチャペル会館をおたずねしお話を伺った。

— 先生は幼児洗礼だったのですか

宮崎 はい、そうです。

— ご両親とも初めから聖公会の信徒だったのですか

宮崎 実は私の父は日本キリスト教団の牧師の息子でしたが、彼は立教中学に入学した時に聖公会に転会し、チャペル(立教諸聖徒礼拝堂)の信徒になっていました。私はそこで幼児洗礼を受けたのです。でも幼稚園は教団立に通い、小学校は公立だったので、まあ隠れたクリスチャンでしたね。

— 教会にはあまり行っていなかったということですか

宮崎 そうです。

ね。立教小学校を受験して不合格だった悔しさから、中学受験の時はちゃんと勉強しました。合格した喜びの勢いで「私は神様に仕えます」と決心し、チャペルのアコライトギルドのメンバーになりました。でもそれは、「アコライトをして神様に奉仕します」というくらいのもりで、「生涯仕える」とまでは言っていません。神様の聞き違いでしょうか。神様の前でうっか



なたでした。宮崎 水谷博彦チャプレン、西川征士チャプレン、河崎望チャプレンという時代ですね。チャプレンの家でよくご馳走になっていました。

SS(日曜学校)ネットワーク 初めまして!SSネットワーク(SSN)です。と言いましてもお聞き慣れないかと思いますが、従来の「SSスタッフ連絡会(SSS)」が名称をリニューアルし今年から教区の活動としてスタートすることになりました。

と参加と祈りと献金等で支えて頂かなければ立ち行かなかったと深く感謝しています。宣教教育には幼児・小中高生・青年の継続した信仰生活が大切で特にSSを見回すと様々な理由で環境が整わずに休校・閉鎖もある中で悩み工夫を重ねている事が伝わってきます。教区でのオフィシャル活動をスムーズに、今SS部門も力を合わせていく良い時が与えられたのだと思います。

は「あー、ハイハイ、わかった、わかった」と、ちよつと素っ気なくてツレナイ応答をされました。私はもつと先生にこつちを向いてほしくて、「それからアノ…、神学院のことでも相談したいのですが」と言うと先生が「おつ、そうか!」と食いついてきてくださいました。不意に出た言葉ではあるものの、そのとき何か今まで自分の中でわかまっていたものが、スーツと軽くなったようで、初めて自分の意志で「神学院に行くという道もいいのかなあ」と思えました。

りや、才能の問題だからうまくいくかどうかわからない。だから、おメエは牧師になれ」と。私の祖父が牧師で、実は父も後を継ぎたかったらしいことを知っていたファーザー曰く、「昔の牧師は貧しくて、おメエの親父は子供の頃、十分苦労したんだ。生涯貧しかったら可哀想じゃねえか。だから親父には牧師になるのをやめさせた。おメエは苦労してなさそうだから、牧師になつて親父が果たせなかった夢を果たせ」と。「それは心外だ」と思いましたが、結局4年生の時に私は神学院のことを言い出したのですから、お導きとはそのようなものなのでしょうね。

合わせていませんでしたし、何より私が思い描いていた牧師への道と、「差別」とか、民族の違いによって人を傷つけ、抑圧的になる言葉がある。それも聖書の言葉であつても、ということが、私の中で全く結び付かず苦しみました。あの出来事で先生方も神学生も一緒に苦しんだと思います。教会の方々から、「そんなことのために教区の金で勉強させているんじゃない」とお叱りも受けました。私はいろいろな思いの中で混乱しましたが、そこではっきり理解したことは、教会の信仰や聖書のメッセージは、それだけが浮いているのではなく、人間の生き様とか社会のことや時代、そして歴史などと深く関係している、結び付いているということなんです。そのように聖書を読み直すこと(福音理解すること)を、当時の竹田眞主教をはじめ、東京教区は「宣教方針」として打ち出し、皆で腹を括った、いや、「腰帯を締めた」のではないかと感じています。

「奇跡の犬、ウイル」 福島から来た学校犬の物語』 吉田太郎著 セブン&アイ出版 2016年刊 司祭 下条 裕章



なった学校犬たち、そしてそれを囲む人びと。そして「忘れないで」という願いに向き合った著者の思いめぐらしがつづられた新刊です。「忘れないで」という願いに応えるのは、そんなに簡単ではありません。わたしは、大震災の翌年の3月11日に、ある公立小学校でおこなわれた避難訓練のことを思い出しませんでした。忘れてはいけないという思いから設定されたのでしようが、東京に避難してきてその学校に通っている子どもたちとご家族は、いやされないままに居合わせたい訓練に、さらに心を痛めることになってしまいました。

私たちの教会 [ 2 1 ]

# ようこそ聖フランシス聖エリザベス礼拝堂へ



「十字架の道行」見事な絵画が語りかける堂内



かまぼこ兵舎の名残が見られる現在の礼拝堂



聖フランシス聖エリザベス礼拝堂の静かな佇まい

1947年8月7日、シスター・メリー・エリザベスが来日して8日目に全生園を訪れ、その後、毎月来園され信徒と交流を深めながら物心両面にわたって多大な援助をいただきました。1948年1月2日、それまで所属していた園内

活を整え、神への信頼を持つて福音の証人となるように」との励ましを与えられました。また、東照宮の有名な猿の彫刻を引用し、「見ざる、聞かざる、言わざるではなく、神様の祝福をしっかりと見、み言葉に耳を傾け、福音を語り続けるように」と勧め、説教を終えられました。式の終わりに、Gilles 主教より「東京教区主教と共に按手できたこと、博士論文を終えた後、祝福を以て東京へ送りたい」との言葉が添えられました。

聖フランシス聖エリザベス礼拝堂の始まりと今  
1947年4月28日、秋山基一、細貝岩夫の両司祭が多磨全生園内に日本聖公会の受聖餐者の居る（日基の秋津教会に所属）ことを知り、その信徒のために第1回目の出張聖餐を行いました。その後、毎月一回、両司祭は出張聖餐を行ってまいりました（この日を記念として全生園の聖公会創立とされた）。



日本聖公会宣教百年記念植樹メタセコイア 1959年3月

1947年8月7日、シスター・メリー・エリザベスが来日して8日目に全生園を訪れ、その後、毎月来園され信徒と交流を深めながら物心両面にわたって多大な援助をいただきました。1948年1月2日、それまで所属していた園内

の秋津教会と話し合いの上、円満退会した7名で日本聖公会の会衆を結成し、草津の栗生楽泉園でコーンウォール・リー女史の厳しい指導を受けた磯部栄代が初代会長に就任しました。1949年、清瀬聖母教会の工藤義雄主教が専任チャ

の秋津教会と話し合いの上、円満退会した7名で日本聖公会の会衆を結成し、草津の栗生楽泉園でコーンウォール・リー女史の厳しい指導を受けた磯部栄代が初代会長に就任しました。1949年、清瀬聖母教会の工藤義雄主教が専任チャ

添えにより米軍の兵舎を払い下げてもらい、1950年11月15日、かまぼこ型の会堂が完成しました。1962年、築12年のかまぼこ型会堂も傷みが激しく、改築して完成した10月4日アジジの聖フランシスコの日に教区主教により献堂式が行われ、聖フランシス聖エリザベス礼拝堂と命名されたのです。工藤主教引退後は、清瀬聖母教会の牧師が管理牧師の任にあたられ、福澤道夫、内田稔、近藤幸平、加藤俊彦、宮崎光の各司祭が歴任され、現在は井口論司祭が管理しております。（クリストファー島崎敏彦）

不足」は問題の本質ではなく、それは「祭司の民」の消滅の結果でしかありません。そもそも、「按手された奉仕職」には、聖徒たち（会衆）の中から、「この人を見れば、イエス・キリストの弟子として生きるとは何か分かる」という信徒が、「祭司の民」を整えるために召されるのですから、「牧師不足をどうするか」というのは、そもそも問題設定が間違っています。あえて挑発的な言い方をすれば、「教会が無いから牧師もいない」だけのことです。偽りの伝統との決別、福音の宣教を通して、使徒たちの教えを生きるイエス・キリストの弟子たちを、洗礼を通して生み続けること、そしてその人々を、忠実な弟子たちとして整えること。そのために共に祈り、共に働いてくださる兄弟姉妹が起こされることを祈ります。

新・司祭メッセージ  
祭司の民の危機  
司祭 塚田 重太郎  
1月24日の「司祭按手」前に、「司祭按手を受けて」というトピックで、原稿の依頼がありました。しかし私はむしろ、私の「司祭按手」についてよりも、教会が直面する危機について書きたいと思います。

私たちが家族がいるアバデインは小さな街ですが、中心街に行くところ「かつて教会だった建物」を多く目にします。これはブリテン島のどこかの街に行っても同じことで、大きな街ほど、多くの「かつて教会だった」を抱えています。これらの「もと教会」は、バー、カジノ、カフェ、あるいは住宅に転用されたり、ブローカーが建物を買って、日本で「結婚式場教会」として復活（？）する場合があります。なぜこんな話を持ち出しているかというと、「教会の伝

《信徒リレーエッセイ》  
子どもたちの受洗  
聖オルバン教会 ニコラス・レン  
1月17日に2人の子どもが受洗しました。力強い説教、穏やかな式、洗礼盤での会衆との一体感、そして聖餐式、子どもたちは全てを静かに自分の中に取り込もうとしていました。でも一番楽しかったのは、サーバーがキャンドルの火をちゃんと消せた時だったようです。手をたたいて喜んでいました。優しい、親切な人々と出会ったこの朝の出来事を、子どもたちはとても大切に心にとめていたようです。自分を救ってくれたかけがえないもの、子どもたちもそれを心から信じる時が来たら、この日の出来事はさらに素晴らしい思い出になることでしょう。私の希望は子どもたちの成長を見つづけることです。しかし人生、何かあるかわかりません。「命に至る門は狭く、その道は細い」どれだけの時間が残されているにせよ、この唯一の門を通り、この唯一の道を旅して行きたい。

## 塚田重太郎執事 司祭按手式報告

司祭 高橋 宏幸

1月24日（顕現後第3主日）、スコットランド聖公会アバデインおよびオークニー島教区聖ニニアン教会にて、Robert Gilles アバデイン教区主教と大畑喜道東京教区主教による司式、スコットランド聖公会の6人の司祭、そして70余名の会衆の祈りの内、ヨハネ塚田重太郎執事の司祭按手式が執り行われました。

按手の際、塚田新司祭の緊張した面持ちにこちらも身を引き締まる思いでしたが、式後の安堵した対照的な笑顔もまた印象的でした。

説教者の大畑主教は、聖餐式執行の際に身に纏う祭服、とくに今は使われることがなくなつたマニプルの意味に触れつつ、「神の内に生きるために祈りと黙想を通して僕として仕え、留まることへの決心を固めることの大切さと、祈りと感謝を礎として日々の生

活を整え、神への信頼を持つて福音の証人となるように」との励ましを与えられました。また、東照宮の有名な猿の彫刻を引用し、「見ざる、聞かざる、言わざるではなく、神様の祝福をしっかりと見、み言葉に耳を傾け、福音を語り続けるように」と勧め、説教を終えられました。式の終わりに、Gilles 主教より「東京教区主教と共に按手できたこと、博士論文を終えた後、祝福を以て東京へ送りたい」との言葉が添えられました。



式後、塚田新司祭からは、皇帝コンスタンチヌス以前と以降のクリスチャンが歴史を見る視点の変化をテーマとした論文のこと、「これから自分が行う説教において、イエスは主という時の主とは？」ということを軸に、福音を真理として語っていきたい」との力強い決意を伺い、教会を後にしました。

祭からは、皇帝コンスタンチヌス以前と以降のクリスチャンが歴史を見る視点の変化をテーマとした論文のこと、「これから自分が行う説教において、イエスは主という時の主とは？」ということを軸に、福音を真理として語っていきたい」との力強い決意を伺い、教会を後にしました。

こと、大きな街ほど、多くの「かつて教会だった」を抱えています。これらの「もと教会」は、バー、カジノ、カフェ、あるいは住宅に転用されたり、ブローカーが建物を買って、日本で「結婚式場教会」として復活（？）する場合があります。なぜこんな話を持ち出しているかというと、「教会の伝

統」と呼ばれるものの中には、本来、使徒たちの教えと関係のないものから、さらには教会を内側から滅ぼすようなものまであるからです。新約聖書において、「教会」はイエス・キリストを救い主として信じ、そして神として礼拝する弟子たちの共同体であり、洗礼という「按手」を通して「神の祭司の民」とされた人々のことです。ところがあるときから、建物が「教会」と呼ばれるようになり、「司祭」と呼ばれる一握りの集団がいれば、「教会」があるかのように考える、非常に強力な、しかし反使徒的な「伝統」が生まれました。かつて「キリスト教圏」と呼ばれた西洋世界のあらゆる都市で見られる、「からっぽの教会」は、この長い、しかし使徒たちの教えと相容れない、「伝統」の遺産です。

不足」は問題の本質ではなく、それは「祭司の民」の消滅の結果でしかありません。そもそも、「按手された奉仕職」には、聖徒たち（会衆）の中から、「この人を見れば、イエス・キリストの弟子として生きるとは何か分かる」という信徒が、「祭司の民」を整えるために召されるのですから、「牧師不足をどうするか」というのは、そもそも問題設定が間違っています。あえて挑発的な言い方をすれば、「教会が無いから牧師もいない」だけのことです。偽りの伝統との決別、福音の宣教を通して、使徒たちの教えを生きるイエス・キリストの弟子たちを、洗礼を通して生み続けること、そしてその人々を、忠実な弟子たちとして整えること。そのために共に祈り、共に働いてくださる兄弟姉妹が起こされることを祈ります。

復活祭を待ち望む

大齋節の過ごし方

広報委員 前島 恵

信仰生活が長くなると、良くも悪くも身体に染み込んだ考え方を持つようになります。大齋節の時期になると思い浮かぶ言葉は克己です。小学生の頃だと思いますが、祖母や母が話していたことは、この時期には結婚式は無論、婚約式



などのお祝い事は控える、食事は控えめにするとか、美味しいものを食べ過ぎないとか、毎日の生活で自分を律することが大切であるなどです。

そうした感覚を持つ私にとって、驚きだったのは以前に行っていたドイツの光景です。たまにたま大齋節の時期



に行った街角のショー

ウィンドの

デイスプ

レー、復活

祭を待ち望

む飾りに惹

きつけられ

ました。冬



枯れの街を彩るチョコレート

の店

にはウサギや

イースターエッグ、

そしてほの暗い

駅構内の店の明

るいワクワク

する気持ちを持

っていてもよ

いのではない

かと思う今日

この頃です。

自制した生活を送りながらも、

来たり来る復活祭を待ちわびる

るいワクワクする気持ちを持って

いてもよいのではないかと思う今日

この頃です。

世界の聖公会ニュースあれ

これ（2016年春）

\*全聖公会中央協議会（The Anglican Consultative Council、通称ACC）の第16回会議が、2016年4月8日から19日にかけて、ザン

ビアのルサカで開催される。世界の

アングリカン・コミュニオン諸管区

より信徒・聖職・主教が参加し、教

会間の情報交換と、共働のための

コーディネートを行う。

\*カンタベリー・ヨーク両大主教

は、イングランド教会

の全ての教区司祭に対

して、イングランドの

宣教のために「祈りの

大波」を起こすよう要

求した。特に聖霊降臨

日までの1週間に、全

国の諸教会が祈りに加

わるよう招ねいた。

\*西アフリカにおけるエボラ熱の

流行に対し、シエラレオネのポー・

フリータウン教区及びギニアの諸

教区の主教達は2月、政府や国連、

諸機関の代表者達と、積極的な変化

や回復を目的とする協議を行った。

\*キューバのベルメジャスでは、

1932年の聖公会ミッシジョンに

よる宣教開始から84年を経て、新

しい教会が建築され、1月に聖別

された。これまでは場所を借りて

礼拝を行っていたが、多くの教会

や個人の支援により建設が行われ

た。キューバにおける聖公会の信

徒数は約1万人。

\*メキシコ・ティファアナとアメリ

カ合衆国・サンディエゴの聖公会

信徒が、2月27日（棕櫚の主日の

前日）に集まり、国境を超えて聖

餐式を祝った。両会衆は「十字架

の道行き」を行ったが、最後の留

は国境に配置された。移民の直面

する過酷な状況への注目を呼びか

けるものであった。2012年開

始のプロジェクト。

\*ミャンマーのヤンゴンに、ミッ

ジョン・ツウ・シーフェアラ

ズ（The Mission to Seafarers）の

新しいミッジョンセンターが完成

し、2月28日に同地の聖三一主教

座聖堂にて、奉献の祈りが捧げら

れた。ヤンゴン港において、船員

やその家族のための支援や牧会活

動を行う。

出典：ACNS (Anglican

Communion News Service) [http://](http://www.anglicannews.org/)

[www.anglicannews.org/](http://www.anglicannews.org/)

文責：聖職候補生 大和孝明

編集後記

今回の特集は青年会にお願いして、今までの活動のまとめ、これからの展望などを報告していただきました。これからも青年会の働きに注目していきたいと思

次回ペンテコステ号

5月15日発行予定

ちょっと聖書、ときどきユーモア（二十四）

1. パン種

牧師「神の国はパン種に似ています。粉に混ぜると全体が膨れるのです」

信徒「それなら私も神の国に似ています」

牧師「どこが似ているんだね」

信徒「だってパンを食べ過ぎて、体全体が膨れましたから」

2. 説教の感想

信徒「先生、今日の説教はちょっと飛躍しているとは思いましたが、いつ

もよりコンパクトにまとまってよかったと思います」

牧師「すいません、説教の原稿を1枚とばしてしまいました」

3. すでに・・・

礼拝の直前になって、祭壇に飾る花が用意されていない事に気が付いた。

そのことで、信徒同士が言い争いをはじめた。

「今日の当番はあなたじゃなかった？」

「いや、私は都合が悪いので、確か〇〇さんに頼んだのよ」

「私は頼まれていないわよ」

そんなことより何とかしなきゃ」といった具合。

それを聞いていた牧師が一言、

「皆さん、もうすでに“喧嘩（献花）”をしていますよ」